

府養研ニュース

2004年11月号

このページでは要点だけをお知らせしています。
追加記事は、本ページのリンクをクリックください。新しいウィンドウが開きます。

府養研ニュースは各種案内等の事務連絡と一緒に、毎月第1月曜日にEメールで配布されています。第1月曜が祝日であれば火曜日発行になります。来月12月は6日発行です。一部メール網がまだ整備中もしくは検討中の市町村は、郵送または逡送されています。アドレス変更の学校は旧アドレスと新アドレスをメールでお教えてください。

平成16年11月1日発行 大阪府養護教育研究会(広報部)
事務局 豊中市立南桜塚小学校 会長 西田 益久 〒561-0882 豊中市南桜塚2-2-1
問い合わせ・ご意見は、Mailで[本部役員](#)まで

府養研から

ホームページもご覧ください。 <http://fuyouken.visithp.jp>

- ◎特別支援教育の動向、関連リンク紹介などの各種情報をご覧になれます。
- ニュースの全部とバックナンバー、講演会案内、報告をご覧になれます。
- 各支部のページがあります。ホームページからご覧ください。(支部主催行事・講演等)
支部ページは支部からの投稿で更新されます。[投稿](#)をお待ちしております。

ウイルスにご注意。思い当たりのない、疑わしいメール、添付ファイルは危険です。
また、普通のホームページを見るだけで感染するものもあります。感染すると被害がネットを通じて広範囲に広がるため、マナーとして対策ソフト導入は必須です。

役員総会(本部役員・支部役員のみ 今年度役員の方、ご予約ください)

- 第3回平成17年1月13日(木)午後3時～5時 アウィーナ大阪3階生駒の間

行事部から

施設見学研修報告

8月25日に実施された。滋賀県立近江学園と甲西町発達支援センターの報告と参加者のご意見・ご感想

研修部から

<p>日程きまりました。 テーマ別研修会</p>	<p>2005年1月7日(金)午後2時～4時30分 行動に様々な問題を示す子どもたちへの理解と援助 Q&A 八尾市文化会館(プリズムホール) 3階～5階 案内添付 テーマ別に各分科会担当者まで、 11月末までに FAXでお申し込みください</p>
------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

研究部から

<p>台風により 日程変更しました ○自閉症教育プロジェクト</p>	<p>2004年11月15日(月)15:00～17:00 会場 泉南府民センタービル 第一セミナー室 －自閉症の心理学的な障害特性の理解と対応の基礎－ 講師 金井孝明先生(堺市立百舌鳥養護学校教諭) 案内添付</p>
<p>○自閉症教育プロジェクト 講演(予定)</p>	<p>予告 2005年2月24日(木)14:00～16:30 場所 サンスクエア堺(勤労者福祉総合センター) 演題 高機能自閉症およびアスペルガー症候群の理解と 教育現場での対応への示唆 講師 内山登紀夫先生(児童精神科医、よこはま発達クリニック)</p>

他団体から

参加された方、投稿よろしくお願ひします。_____

<p>ATAC カンファレンス</p>	<p>2004年12月 3日(金) 4日(土) 5日(日) 案内・申し込み http://www.e-atac.jp/ 障害のある人や高齢者の自立した生活を助ける電子情報支援技術(e-AT)とコミュニケーション支援技術(AAC)の普及を目的。専門家のセミナー、実践紹介、ユーザ自身による発表、障害疑似体験、世界の最新動向紹介などを自由に選択して学べます。</p>
<p>滋賀大学教育学部 附属養護学校 教育実践研究発表大会</p>	<p>2004年11月27日(土)8:40～17:00 場所:滋賀大学教育学部附属養護学校 「知の21世紀をきり拓く、特別支援教育の在り方を探る」 ～個別の教育ニーズ(SEN: Special Education Needs)に基づく学習支援プログラムの開発と地域における特別支援教育のセンター的役割を担う研究の構築～ 申し込みは11月15日(月)まで 案内添付 参加費3000円 詳細はhttp://elics.edu.shiga-u.ac.jp/~kenkyuu/2004/newpage10.htm</p>

<p>自立活動教育研究会</p>	<p>自立活動教育に携わる教師を中心に情報共有と相互支援を目指す自立活動教育研究会http://www.hi-mef.or.jp/jiritsu/ 活動参加のお誘いのチラシ添付</p>
<p>NPO法人 それいゆ</p>	<p>平成16年11月23日(火・祝) *全通訳つき 場 所:大阪交際交流センター 講 師: トニー・アトウッド博士 杉山登志郎 氏 大塚 晃 氏 「アスペルガー症候群の人の社会自立の支援」申し込み必要 参加費 16000円 それいゆHP http://www2.saganet.ne.jp/autism/</p>
<p>全肢研 和歌山大会</p>	<p>http://www.nanki-sh.wakayama-c.ed.jp/zensiken/annai2.htm 11月17日(水)～19日(金)</p>
<p>終了全特連</p>	<p>参加された方、投稿をお願いします。</p>

行事部主催 施設見学研修報告 < 8 / 25 (水) 実施 >

文責 行事部 吉野 猛 (箕面市立第二中学校)

今年度は昨年に引き続き、滋賀県立近江学園と甲西町発達支援センターを研修先に選びました。昨年は、募集定員40名のところ、80名を超える申し込みがあり、研修先の受け入れ人数の関係で抽選を行い、約40名の方々が参加できなかった経緯がありました。今年度は、昨年の研修先に参加されなかった方々を対象とさせていただき、当日は32名で出発することになりました。

< 滋賀県立近江学園 >

学園に到着後、片岡先生から近江学園の現状についてお話いただきました。近江学園は、6歳から18歳未満の知的障害児・者を対象とする児童福祉施設です。ところが実際には、様々な家庭の事情により、18歳以上の入所者が19名(内20歳以上が11名)となっているとのこと。8月現在の入所者の年齢は、6～11歳が17名、12～14歳が19名、15～17歳が42名、18歳以上が19名となっています。

入所者の障害程度は、最重度24名、重度24名、中度20名、軽度29名であり、中度・軽度の入所者が増加傾向にあるそうです。その原因として、児童虐待が関係している可能性があるとのことでした。

また、夏休み等の長期休業中の短期入所利用が増加しており、平成16年度の7月だけで112件の利用件数があり、延べ日数にすると178日の利用があったとのこと。昨年度は、7、8月の夏休み中の利用が延べ日数で440日にもなったそうです(年間の延べ日数では平成15年度は1705日)。

入所者は、家庭や家族とのつながりを大切にするために、週末や年に数回の帰省をしています。家庭の事情で帰省できない子どももいるとのことでした。

学園の概要について説明していただいた後、施設の見学をさせていただきました。昼食時ということもあって、入所者のみなさんは食堂で食事をとっておられました。つい、我々見学者側が見入ってしまうような形になった場面もあったように思います。入所者の方々には、本当に申し訳ありませんでした。

それぞれの作業場では、入所者のみなさんの作品を見せていただきました。廃材を加工した木製椅子・机、掛け時計などの木工製品や、国際美術コンクールに出品された陶芸品など、個性いっぱいの作品群に多数の参加者がカメラを向けていました。



< 甲西町発達支援センター >

以下、当日お話ししていただいた甲西町発達支援室の藤井先生、西谷先生の講演の要旨を報告させていただきます。



甲西町発達支援センターは、甲西町立三雲小学校内に設置されています。発達支援センター設立の目的は、幼児期から学齢期、就労まで一貫した支援システムを構築することにあります。

当時、保育所・幼稚園、小学校、中学校、養護学校、高等学校、就労といった場面で、それぞれの組織間の結びつきのなさが、様々な困難を子どもたちや保護者にもたらしていた現状をなんとか改善しようと、地域の障害者団体（10団体）が、支援センターの設置を求める1万3千人もの署名を集め、当時の町長に提出しました。そのような地域社会及び保護者の方々の強い支持と要望があって設立されたのが甲西町発達支援センターなのです。

甲西町の発達支援システムは、教育・福祉・保健・就労の関係機関間の連携を行ったうえでのサービスの実施、個別のケースごとの修学前から学齢期さらに就労に至るまで、個別指導計画（IEP）・個別移行計画（ITP、就労にむけた計画）を作成し、それらの個別計画に基づいたサービスの提供を目指しています。例えば就労に関しては、甲西町の場合、220社の事業主との連携がとれており、個別移行計画に基づいて事業主と協議をすすめることで、就労に向けた支援を行っています。

また、発達支援システムのなかで、乳幼児期から就労期に至るまでのコーディネート機能を誰が果たすのかについてですが、乳幼児期は、保健師が中心にコーディネートします。乳幼児健診に於ける発達相談に基づいて処遇検討会を開き、必要に応じて親子教室・早期療育発達相談室・ことばの教室（幼児部）・郡療育教室などの利用を支援します。

学齢期は、学校教育指導主事・発達支援室長・特別支援教育コーディネーター・保健師がコーディネートします。乳幼児期から作成され続けている個別指導計画に基づいて、各学校での支援を中心に、巡回相談員、発達支援室長、指導主事による支援も行われ、定期的に個別の関係者調整会議がもたれるしくみになっています。場合によっては、発達支援室長が、虐待や不登校の問題に直接関わることもあります。

学校終了後から就労期にかけては、発達支援室長と保健師が中心にコーディネートします。不登校からひきこもり、虐待等の問題を、関係諸機関のネットワークを活用しながら支援するとともに、就労に関しては、雇用支援ワーカー

や障害者職業センターと連携を図りながら支援することになります。

以上の支援システムを円滑に運営していくうえで欠かすことの出来ないのが発達支援 IT ネットです。甲西町内の発達支援に関わる諸機関の間にイントラネットを構築し、個々の子どもたちの個別指導計画や個別移行計画、言葉の教室等での授業内容などが、支援に関わるメンバーにはすぐに閲覧できるシステムになっています。

今後の課題としては、個々の担当者一人ひとりが、個々の事例に対して一貫した支援を前提にしたうえで、子どもや保護者が今必要としているサ・ビスを提供できるようにすること、コ・ディネ・ト機能が発達支援システムの中心業務であることをふまえ、個々の担当者が教育、福祉、保健、就労のサ・ビスを十分に理解したうえで、連携のとれたコーディネートをすすめること等があげられます。

藤井先生からは、(大阪府下からの)参加者のみなさんにとって、今後の特別支援教育の実施に向けて、甲西町の発達支援システムを参考にしながら、どのような点に留意していけばいいのかについて次のような指摘をいただきました。「特別支援教育の成功のカギは、中学校と養護学校がどれだけ協力できるかにかかっている」「特別支援教育は一人の障担ががんばっても動かない。特に校長、教頭の研修と意識改革が不可欠である」等々。ページ数の関係ですべてをお伝えできないのが残念ですが、本当に熱のこもったお話をいただきました。参加者からもたくさんの質問があり、今後の特別支援教育の方向性を考えていくうえで有意義な見学会になったように思います。

<参加者された方々のご意見・ご感想>

近江学園は以前から是非訪問してみたかったので今回実現でき大変うれしかった。TEACCH プログラムでも対応が困難な場合の実践例や学園生の実際の活動の場も見ることが出来ればと思う。

近江学園について私は知りませんでした。今回見学させていただいてよかったと心から思いました。子どもたちの自立に向けて色々考え取り組まれていること、特に TEACCH プログラムがよいと判断されたら、それをすぐに実践に取り入れ、子どもたちも先生ものびのびされていることが実感できましたし、苦手なことを避け、得意なことをのばすという方針がとても効果をあげているように思えました。木工などの作品のかわいらしさ、すばらしさは子どもたちの制作の喜びを伝えてくれました。「この子らを世の光に」の実現に向けてがんばっていきましょう。

甲西町の発達支援システム、三雲小学校の実践の話聞いて、自分が勉強できていないなあ実感しました。今勤務している学校で新たに特別支援教育にとりくむには校内の体制がまだ出来ていないということが、一番先に頭に浮かびました。しかし、今日のお話を聞いて、まず LD や ADHD などの子どもが、現在の状態でうまくいっているのか、困っていることはないか調べてみること等、出来ることから取り組み、どういうことを子どもたちに返せるかを考えてい

なければいけないと思いました。今それぞれの学校で、出来ることから一步一步取り組んでいこうと思います。

近江学園の見学は学生の頃から願っていたので、とてもうれしかったです。今も糸賀先生の精神が引き継がれ、しかも現実的に前進されていることを感じてうれしかったです。施設が古くなってきているので計画通り早く新築、改築できるといいなあと思います。片岡さんが園児の話をされているときの話され方から、園児の人格をいかに大切にされているかが伺えてうれしかったです。TEACCH プログラムについて、これまでいろんな思いがありましたが、片岡さんの話を伺って、もう少しつつこんで学習してみようかと考えています。

甲西町の実践はすごいなあと思います。イントラネットの活用はびっくりしました。いろいろ学んだ事を自校でどれだけ生かせるか頭の痛いことですが、一歩でも何か出来ればと考えています。

近江学園と糸賀先生の名前だけは知っていましたが、実際に施設を見せていただき、また職員の方にお話を聞かせていただいて、教育の原点を新たに学んだような気がしました。また、子どもたちの陶芸作品や木工作品を見せていただいて、子どもたちの感性に驚きました。一つ一つが個性的で素晴らしい作品でした。

発達支援センターでは藤井先生のお話、とても勉強になりました。甲西町のシステムをもって帰るのではなく、ということが子どもたちに返せるのか考えて欲しいという先生の言葉が印象的でした。

大阪府の他市の先生方とお話もすることが出来てよかったです。他市の特別支援教育の取り組みの情報を得ることが出来ました。大変有意義な研修で、時間の過ぎるのを忘れませんでした。近江学園の次長さんから、丁寧な説明をしていただき、また施設見学の機会を得られたことに感謝します。

甲西町発達支援センターも、今後の特別支援教育を考える上で、非常に参考になりました。藤井室長のお話はストレートで、「目の前の子どもをどうするかということ養護教育の担当者よりむしろ、それぞれの行政なり、教育関係者なりが責任をもって進めていくべきだ」ということが、よく理解できました。また、西谷先生の説明もよくわかりました。この施設見学研修に参加できて本当によかったです。近江学園のお話を伺って、いろいろと明確な指針をいただけたと思います。構造化と生徒本人の力をフルに発揮できる工夫をいたしました。

甲西町発達支援センターのお話では、小さな単位で連絡網を作り上げる大切さも感じました。3～4校の中学校区内で試してみるのもいいかもしれません。今ある社会資源をまず使いこなせることが大切なようですね。

余談になりますが、府養研で府立養護の先生（高等部）と市立小・中学校の養担とで情報交換できる（進路や教育課程の内容相談）研修があればいいなと思います。市単位でやったほうがいいのかもしれませんが、高等部の先生にいろいろお話を伺いたいです。

近江学園では、施設の見学だけでなく、実際の関わりによっておこる、理想と現実のギャップに考えさせられるとともに、具体的な今後の課題等についてわかりやすくお話して下さってよかったです。入所施設は解体の方向にあって、地域へと進んでいます。施設から出られない人がいる現状の中で、なかなか思うようには行かないかなと感じています。

限られた時間でしたので、ゆっくり見学できなかったのが残念でしたが、広い敷地、緑の多い恵まれた環境の近江学園に、まずびっくりしました。学園紹介の話の中で、軽度の子どもたちの占める割合が増加している原因の一つに虐待の問題が相当数あると伺い、ショックでした。お話いただいた、支援のポイントは、とても参考になり具体的な手段が大事というのを改めて感じました。と同時に職場に戻って、地域でどんな支援が出来るかを考えるヒントになり、大変よかったです。

このような遠方の見学となると夏休み等の休業の時期でないと職場を離れるのが難しいので、なかなか来させてもらうことが出来ません。このような計画の研修はとても有り難いと思えました。近江学園についてですが、この学園の存在を耳にはしていても、ほとんど知らないに近かったので今回見学させてもらって少しでも知ることが出来ました。子どもを大切にするという理念と、自立をうながす具体的な取り組みとが伺えました。学園の歴史の説明の中に、びわこ学園創設に関するお話がありました。機会があればそちらの方も見学研修させていただきたいと思えました。

障害児・者への取り組みのルーツ的存在である近江学園を訪問でき、とてもありがたく、感謝でした。また、近年の障害児教育分野で非常に話題になっている甲西町の取り組みの実際の場所でお話しを伺うことができ、これまで、いろいろなところで語られてきていたことが私の中でイメージとしてもさらに奥深いものとして理解できました。このような研修の機会を企画された関係者の意図は素晴らしいと考えました。講師の話だけではなかなか理解しがたいことを空間、時間、人が加わって奥深い理解になったと考えます。教師にとって、たいへんよい企画だと思えました。各現場での快い受け入れも、準備を含め多大な労苦があったと思います。感謝です。

以上、参加者の方々のご意見・ご感想をすべてではありませんが紹介させていただきました。ページ数の関係で、数人の方の感想を一つにまとめさせていただきましたものもあります。ご了承下さい。なお、時間のない中、バスの中でお書きいただき、本当に有り難うございました。お礼申し上げます。

平成16年11月1日

各 学 校 長 様
養護教育担当者 様

大阪府養護教育研究会
会 長 西田 益久

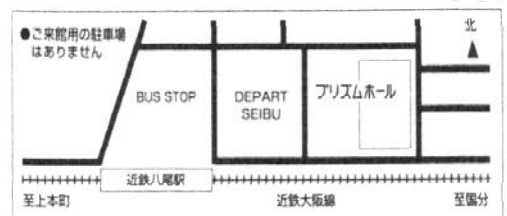
府養研 テーマ別 研修会

『 行動に様々な問題を示す子どもたちへの理解と援助 Q&A 』 (二次・最終案内)

晩秋の候、先生方におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと拝察いたします。
さて、当初予定しておりました本研修会が、諸般の都合で日程が延期になりましたことを、お詫びいたします。
再度、検討を重ねて、今日的な課題についての分科会を設定し、『テーマ別研修会』を企画致しました。
助言の先生方のお話をお聞きしながら、日頃悩んだり困ったりしていることを話し合いたいと思います。
養護学級担任の先生方だけでなく、通常の学級の先生方も、是非ご参加下さいますよう、ご案内致します。

記

1. 日 時 平成17年1月7日(金) 午後2時～4時30分
(受付 午後1時30分より)
2. 場 所 八尾市文化会館(プリズムホール) 3階～5階
八尾市光町2丁目40番地 (TEL 0729-24-5111)
近鉄大阪線八尾駅下車 徒歩5分
(上本町駅より準急約15分)
3. 申込先 テーマ別に各分科会担当者まで、
FAXでお申し込み下さい。
ただし、質問がある方は封書にてお送り下さい。
4. 締め切り 11月末日



※ できるだけ公共交通機関をご利用下さい。

【参加申込み・問い合わせ先】

分科会	学 校 名	担 当 者	住 所	F A X 番 号
第1分科会	富田林市立 第一中学校	小松 隆	〒584-0031 富田林市寿町1-3-5	0721-26-2308
第2分科会	摂津市立 味舌東小学校	西村 久子	〒566-0022 摂津市三島2-13-38	06-6383-8506
第3分科会	八尾市立 曙川南中学校	北山 美穂	〒581-0027 八尾市大字八尾木167	0729-94-1419
第4分科会	門真市立 浜町小学校	寺下 正樹	〒571-0054 門真市浜町22-41	06-6902-2894
第5分科会	貝塚市立 木島小学校	河崎 裕子	〒597-0105 貝塚市三ツ松1048	0724-46-3889
第6分科会	池田市立 北豊島小学校	渡邊かおり	〒563-0036 池田市豊島北2-12-1	072-761-1297

各分科会のテーマと助言の先生方

第 1 分科会	ADHDといわれる子どもたちへの理解と対応
ADHDと言われている子どもとは、どのような特徴をもっているのか等について、その概論も含めて相談があれば。 助言 関西医科大学附属香里病院 小児科部長 安原昭博 先生	
第 2 分科会	LDと言われる子どもたちへの理解と対応
主に通常学級の中でのLDと言われている子どもたちに対して、どのように理解し対応していけばよいのかなどについて相談があれば。 助言 高槻市如是中学校 教諭 中村敏子 先生	
第 3 分科会	行動障害（問題行動）を示す子どもたちへの理解と対応
その行動のとらえ方を中心とした質疑応答。生活の中での様々な理解しにくい行動をどう捉えて、指導をすすめればよいのか。 助言 兵庫教育大学 助教授 井上雅彦 先生（交渉中）	
第 4 分科会	自閉傾向を示す子どもたちへの理解と対応
自閉といわれる子どもたちの特性と理解、および指導のあり方について。 助言 アクトおおさか センター長 新澤伸子 先生	
第 5 分科会	肢体不自由の子どもたちへの理解と対応
肢体不自由の子どもたちの示す特性と理解、および指導のあり方について。 助言 こどもデイケアいずみ 理学療法士 下嶋清市 先生	
第 6 分科会	性に関する課題のある子どもたちへの理解と対応
発達に障害のある思春期の子どもたちの性的な悩みについての理解と、実際の指導について。 助言 大阪知的障害者育成会地域支援担当 中村昭代 先生 日本自閉症協会大阪支部 大橋一予 先生	

----- 切り取り線 -----

府養研 テーマ別研修会 参加申込みと質問内容

H17.1.7

宛 先	第（ ）分科会担当	市立	学校	先生 宛
参加者氏名	(連名可)			
所 属 校	市立	学校		
連 絡 先	TEL	FAX		
<p>以下は質問のある方のみお書き下さい。質問内容は、学年・組・性別・障害状況・問題となる行動などを、簡潔・具体的にお書き下さい。この欄に記入された方は、個人情報保護の観点から、封書にて郵送して下さい。スペースが足りない場合は、適当な用紙をご利用下さい。</p>				

平成 16 年 10 月 22 日

学校長様
養護教育関係者様

大阪府養護教育研究会
会長 西田益久

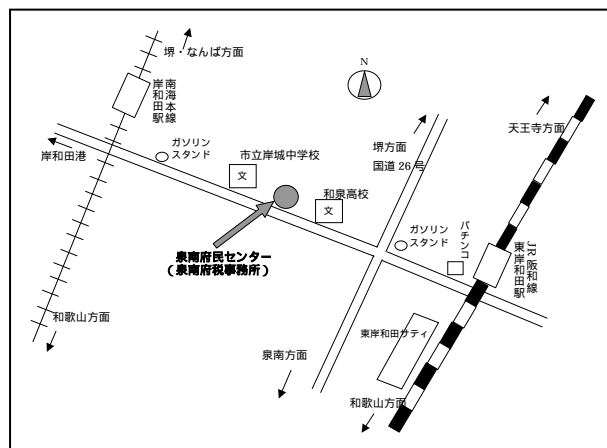
府養研研究部・自閉症教育プロジェクト研究会開催のお知らせ

涼しさも感じられる頃となってまいりました。平素は養護教育の振興と本研究会の発展のために格別のご厚意を賜り、誠にありがとうございます。

さて、台風 23 号の影響により中止としました「自閉症教育プロジェクト」第 2 回研究会（10 月 20 日）を下記の内容で再度実施いたします。「自閉症教育プロジェクト」では、自閉症児の教育指導に関する研究会 / 研修会の開催ならびにさまざまな関連情報の共有について、府内の教職員間のネットワークづくりをいっそう進めていく計画でございます。つきましては、次回研究会への貴校の先生方の参加に関しましてご配慮いただきますとともに、あわせてご案内申し上げます。

記

1. 日 時 平成 16 年 11 月 15 日（月）
午後 3 時～5 時
2. 場 所 泉南府民センター（泉南府税事務所）
第一セミナー室
〒596-0076 岸和田市野田町 3-13-2
Tel.0724-39-3601
南海本線岸和田駅（特急・急行停車）より東へ 800m、または JR 阪和線東岸和田駅（快速停車）より西へ 900m



3. 内 容

【 講 演 】

テーマ 「自閉症の心理学的な障害特性の理解と対応の基礎」

講 師 堺市立百舌鳥養護学校教諭 金井孝明先生

自閉症の心理学的な障害特性から、彼らがまわりの世界をどのように認識しているのか、どのようにしてかわろうとしているのかを知ること、実践場面での具体的な対応がより工夫しやすくなります。

高機能自閉症、アスペルガー症候群をはじめ自閉症理解の本質にかかわる基礎的な心理特性についての理解を深めたいと思います。そして、例えば「構造化」や「視覚支援」と呼ばれる方法の意味も考えてみたいと思います。さらに、それらに基づき具体的な場面での対応はどうすればよいのかを考えます。

参加申し込みはいりません。当日会場に直接お越しください。問い合わせは、府養研事務局までお願いいたします。府養研事務局 E メール [_____](#) (以上)

教育実践研究発表大会

平成16年11月27日(土) 8:40~17:00

主催 滋賀大学教育学部附属養護学校 滋賀大学教育学部
後援 滋賀県教育委員会 大津市教育委員会 滋賀県障害児教育研究会

研究主題

「知の21世紀をきり拓く、特別支援教育の在り方を探る」

~個別の教育ニーズ(S E N: Special Education Needs)に基づく学習支援プログラムの開発と地域における特別支援教育のセンター的役割を担う研究の構築~

軽度発達グループ	共同研究者	北脇三知也
自閉症グループ	共同研究者	黒田吉孝
発達グループ	共同研究者	白石恵理子
情報活用能力グループ	共同研究者	宮田 仁
障害児の社会自立と参加グループ	共同研究者	黒田 学

keyword

- ・大学との連携(共同研究)
- ・教員の資質の向上
- ・地域貢献(センター的な役割)

教育実践研究発表大会のみどころ

ポイント1 . 障害児教育における教科指導で、特にニーズの高い「ことば」「国語」「かず」「算数」を公開授業します。

ポイント2 . 大学教員と附属教員で構成する「共同研究グループ」のこれまで経過をポスターセッションで報告します。

ポイント3 . 大学教員がそれぞれの専門性に基づき、現代的ニーズに関連する公開講座を全14講座、開きます。

ポイント4 . 学習支援プログラム(5グループ分)をお配りします。(障害児学級むけに作成されたヒント集です。)

滋賀大学教育学部附属養護学校

簡単な日程紹介（詳細はWebをご覧ください。）

- 8：30～ 受付
- 8：40～ 公開授業（国数を中心に小中高全てのクラスの授業を公開します）
- 10：30～ 全体会 研究概要説明等
- 11：00～ ポスター発表 本校5グループ及び外部共同研究参加
- 12：30～ 昼食休憩
- 13：30～ 大学教員による公開講座1
- 15：00～ 大学教員による公開講座2
- 16：50～ 全体会

滋賀大学教育学部附属養護学校

〒520-0002大津市際川3丁目9-1

TEL(077)522-6569 FAX(077)526-2279

<E-mail>

<HP> <http://elics.edu.shiga-u.ac.jp/~kenkyuu/2004/>

参加費 3,000円（学生の方は、1,000円）

*ただし、学生の方は、紀要と学習支援プログラムは含まれておりません。

参加申し込み方法 11月15日(月)までに下記の内容を、Eメール

またはFAXにてお知らせ下さい。

+++++

教育実践研究発表大会

参加申し込み

滋賀大学教育学部附属養護学校

FAX(077)526-2279

学校名(所属名)	
電話	
職・ご氏名	
希望公開講座	公開講座1 公開講座2
昼食希望	有・無

あなたもアクセスしてみませんか

自立活動教育研究会

HPアドレス：<http://www.hi-mef.or.jp/jiritsu>

- 自立活動について気楽にまじめな話をしよう -

掲示板やメーリングリストも用意しております

情報共有の場に参加しませんか



大阪自立活動教育研究会

1. 自立活動教育研究会とは？

本研究会は、自立活動の指導内容の事例・教材等のコンテンツを作成・収集し、かつ共有して、実際の指導に活用するための教員間の相互支援の仕組みづくりを研究・開発することを目的として、今年度**文部科学省の教育情報共有化促進モデル事業**に参画することを契機に設置されました。那須信男(大阪府立寝屋川養護学校校長)を会長として、その他のメンバーは教員、研究者、NPO スタッフなどで構成されています。

2. ミーティングについて

毎月第三水曜日は 19:00 からミーティングをしています。興味のある方は気軽にのぞいてみてください。

場所) 大阪府中央区平野町 1-4-1-502

MEF 事務所内 TEL 06-6947-7220

3. ホームページについて

本サイトは、自立活動教育に携わる教師を中心に情報共有と相互支援をめざすサイトです。

本会の**最新の活動情報**や**お勧め教材**、**実践授業の発表**、またみんなで「**こんな場合はどうするの?**」「**こんなことをしたよ**」「**いや、こうではないか?**」など新鮮な情報を交換できる**掲示板**、**メーリングリスト**などを取り揃えており、さらに充実させていく予定です。**たくさんの方の参加をお待ちしております。**

(注)誰にでもオープンな部分とプライバシーに配慮し関係者のみの部分があります。なお、横解像度800以上でご覧になることを推奨します。

本サイトへのリンクはフリーですが、その際はメールでお知らせください。

お問い合わせは

<http://www.hi-mef.or.jp/jiritsu/form.html>まで。

4. おもしろ教材紹介

くるくるクリック!

とにかくおもしろい!

楽しんでいると、子どもの顔とアイデアが泉のようにわき出るソフトです。

<http://homepage.mac.com/terumai/menu.html>